

経営発達支援事業評価シート【令和4年度版】

II. 地域経済の活性化に資する取組

評価A：目標以上の実績、評価B：概ね目標に近い実績、評価C：概ね目標の半分程度の実績、評価D：ほぼ実績なし

認定計画の事業内容 ※認定計画の事業内容を全て記載すること	本年度補助金活用	目標数値（過年度は実績値）					本年度実績		実施内容ともたらされた効果や今後の対応等	次年度補助金活用有無
		R03	R04	R05	R06	R07	実績値	自己評価		
地域イベントによる地域経済活性化	—	0回	1回	1回	1回	1回	1回	A	実施内容（補助金活用含む） とうま蟠龍まつりの開催。 もたらされた効果や課題 新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント内容を縮小し開催。地域の交流人口に一定の効果はあったが、蜜を避けるため例年通りの集客はできない課題が残った。 今後の対応等（補助金活用含む） 新型コロナウイルス感染症が5類へと引き下げになったため、例年通りの開催に期待が持たれる。	—
経済懇談会の開催	—	0回	1回	1回	1回	1回	0回	D	実施内容（補助金活用含む） 10月に当麻経済懇談会（仮称）を開催する予定であったが、町内での新型コロナウイルス感染症がまん延したため中止となった。 もたらされた効果や課題 今後の対応等（補助金活用含む） 当麻町、当麻町商工会、当麻町観光協会、当麻農業協同組合、当麻町森林組合等の各経済団体が参加する懇談会の設立に向けて今後、対応して参ります。	—
地域資源を活用した特産品開発	—	0回	1回	1回	1回	1回	1回	A	実施内容（補助金活用含む） 特産品の販売として、9月に旭川駅内で行われた「駅マルシェ2022」に出展した。 もたらされた効果や課題 当麻町の特産品を地域外へ発信でき、販路開拓へと繋がった。一方、特産品開発までとは至らなかったことが課題となっている。 今後の対応等（補助金活用含む） 当商工会の内部組織「特産品開発委員会」と協議しながら、特産品開発へ向けに対応して参ります。	—
当麻町の情報発信強化	—	1回	1回	1回	1回	1回	1回	A	実施内容（補助金活用含む） 当麻町商工会青年部と共同制作で商工会会員事業所マップによる情報発信を行った。 もたらされた効果や課題 北海道新聞にも取り上げられたため、町外からも問い合わせがあった。反響がとてもあり、不足分については増印をし、情報発信を行った。 今後の対応等（補助金活用含む） パンフレットの更新（ひるとうま・よるとうま）制作をし、今後の情報発信を強化して参ります。	—

III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

認定計画の事業内容 ※認定計画の事業内容を全て記載すること	本年度補助金活用	目標数値（過年度は実績値）					本年度実績		実施内容ともたらされた効果や今後の対応等	次年度補助金活用有無
		R03	R04	R05	R06	R07	実績値	自己評価		
1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事										
金融機関との連携及び情報交換	—	1回	2回	2回	2回	2回	2回	A	実施内容（補助金活用含む） 日本政策金融公庫主催のマル経協議会において、円滑で効果的な金融施策についての協議を実施した。また旭川信金と協議し、旭川駅で開催された「駅マルシェ2022」の出展に至った。 もたらされた効果や課題 融資の利用目的に合わせた融資制度を紹介・斡旋することにより、事業者の資金繰りの安定に繋げることが出来た。また「駅マルシェ2022」においては販路開拓に繋げることが出来た。 今後の対応等（補助金活用含む） 3金融機関（日本政策金融公庫、北洋銀行、旭川信用金庫）と連携し、情報交換を行って参ります。	—
近隣商工会との連携及び情報交換	—	5回	8回	8回	8回	8回	6回	B	実施内容（補助金活用含む） 石北四町市場協議会において経営支援会議を開催し、支援ノウハウなどについて情報交換を行った。 もたらされた効果や課題 支援事例を共有することで、地区内の事業者への支援力の向上が図られた。 今後の対応等（補助金活用含む） エネルギー高騰対策が必要であるが、定期的に経営支援会議を開催し、実際に支援した経営支援事例を基に職員間で支援ノウハウの共有を図り、今後の事業者支援に役立たせる。	—
専門家との連携及び情報交換	—	3回	3回	3回	3回	3回	4回	A	実施内容（補助金活用含む） セミナーや個別相談会、事業者支援において専門家と連携して、課題解決を図った。 もたらされた効果や課題 小規模事業者への支援ノウハウや情報を共有することができた。 今後の対応等（補助金活用含む） 専門家が培った支援ノウハウは実効性があり、複雑で高度な経営課題に対して端的に課題解決が行えることから職員も同行し、その支援ノウハウを習得し、職員間でも共有する。	—
2. 経営指導員等の資質向上等に関する事										
研修会等への派遣	—	経2補2記2	経2補2記2	経2補2記2	経2補2記2	経2補2記2	経4補2記2	A	実施内容（補助金活用含む） 北海道商工会連合会や中小企業大学校が開催する各職種向け研修会に参加し支援スキルを研鑽した。 もたらされた効果や課題 職員の支援ノウハウの向上が図られた。 今後の対応等（補助金活用含む） 各々の資質向上及び支援力向上に向けて、事業者支援に必要な研修会に積極的に参加する。	—
職員会議の実施	—	50回	50回	50回	50回	50回	51回	A	実施内容（補助金活用含む） 毎週1回職員による会議を実施した。 もたらされた効果や課題 巡回訪問や窓口相談等の情報共有が取れたことにより円滑な支援体制を図ることが出来た。 今後の対応等（補助金活用含む） カルテなどを整理し、職員間で情報が共有できる体制を確立する。	—
3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関する事										
経営発達支援計画に係る会議の開催	—	1回	1回	1回	1回	1回	1回	A	実施内容（補助金活用含む） 外部有識者を加えた総務委員会の中で、令和3年度実施事業の説明と報告を行い、委員から意見をいただいた。 もたらされた効果や課題 委員から意見や助言をいただくことで、今後の経営発達支援計画の実施に役立つ。 今後の対応等（補助金活用含む） 年1回開催し、委員による経営発達支援事業の評価及び検証、目標達成に向けた計画の見直しなどPDCAが機能するよう意見を集約する。	—